

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900129		
法人名	医療法人 木村内科医院		
事業所名	グループホーム 彩友		
所在地	〒812-0041 福岡市博多区吉塚1丁目33-10		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022&ani=true&jigyosyoCd=4090900129-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ	
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号	
訪問調査日	平成29年3月24日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○医療法人が経営主体の施設なので、医学的管理の充実を図り、看取りの介護を実施している。
○研修にも力を入れており、全スタッフが参加できる様院内・院外研修を振り分けてシフトを組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム彩友は、閑静な住宅街に母体医療機関と隣接して建っています。同一建物内には小規模多機能型居宅介護があります。
ホームでは、7つの委員会(認知症予防、環境・接遇、リスク、食事・栄養、行事・レク、看護・感染、防災)活動が月1回のペースで行われており、内・外の研修を全職員が受講できるように努めるなど質の向上に積極的な姿勢が見られます。
地域との交流にも積極的で、地域交流の茶話会への参加は15回目を迎えています。また、ドライブや吉塚商店街への買い物、外食など、住み慣れた地域での生活を楽しめるようにも努められています。
提供する食事は、利用者楽しんで頂けるよう味や色彩などに工夫が凝らされており、イベント食や地域の弁当屋の協力を得ての高齢者向け弁当なども提供されています。職員による検食も食事の度を実施され、利用者の食の安心・安全(食中毒や感染予防等)につなげられています。
生活空間も安全で快適な環境作りを第一に考え、フロアへのカメラ設置や夜間帯のセキュリティセンサー設置など、防犯対策にも力を入れています。
利用者が喜ばれることなら常に新しいことにもチャレンジするといった姿勢を管理者と職員が共に持たれており、様々な事に意欲的に取り組まれています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも誰でも意識できるように見やすい位置に掲示し、いつでも答えられるように指導している。	理念はホーム内に掲げられており、職員にも周知徹底が図られています。次年度においては、全職員による理念の見直しを検討されています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食など外出の機会を多くし地域のかかわりを多く持つように生活している。施設の行事に地域の方をお誘いしたり、近隣公民館等での行事や研修等に参加をしている。地域の障害者施設との連携や交流を深める働きかけをしている。	地域交流の茶話会は15回目を迎えています。吉塚商店街での買い物や外食、和菓子屋までの外出のほか、折り紙教室や吉塚小学校の運動会へも参加されています。また、地区の夏祭りにも参加され、施設内の夏まつりには近隣の方々も参加されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター研修に参加したり、運営推進会議で認知症についての説明をしている。又、地域の方の見学、相談に対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設のイベントの日に運営推進会議の日程を合わせ地域の方が多く参加できるようにしている。会議で出た議題等は報告し、要望等あれば検討をおこなっている。家族からの意見も活発に出され、指摘内容は改善するよう努力している。	運営推進会議は定期的開催されています。包括支援センターの職員や町内会長、吉塚商店街の方々、家族など10数名が参加され、いろんな要望が出されています。要望には可能な限り応じるよう努められており、現在は屋外活動の要望に応じるための検討が行われています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員・包括支援センターに運営推進会議の参加を促している。又、市町村担当者へは電話や訪問をし、相談や施設の報告をおこなっている。	日頃より、市や包括支援センターへ、状況報告や相談のために訪問されています。施設の空き状況等についても相談され、公的扶助受給者の方々も受け入れ、行政と連携しながら利用者のサービスの向上に力を注がれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず外出したい様子があれば一緒に出かけたりと安全面や気分転換を図っている。施設内に置いても拘束の実例は無い。	身体拘束防止に関する研修を受講し、施設全体で取り組まれています。徘徊等があり、落ち着かない方の対応では、一緒に外出したり、気分転換を図ったりなど、極力薬に頼らずに安全で快適な生活が実現できるよう努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やマニュアルをもとに内部研修を行い防止に努めている。自分だけでなく一緒に働く職員同士でも声をかけあい防止している。新人研修にも取り入れている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や内部研修を行っている。管理者はいつでも対応できるように施設独自の研修も受けている。成年後見人利用についてご家族の相談に対応している。実際、ご利用されている利用者様も居る。	成年後見制度について、職員全員が研修を受けられています。管理者は特に理解が深く、いつでも家族の相談に応じられており、関係者との連絡、調節を図られています。また、パンフレット等の資料も準備されています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解出来るまで時間をかけて説明し、納得の上で契約を行っている。不安なことや疑問点にはしっかりと説明を行い、理解して頂いている。退去時も主治医と相談しご家族と協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族、面会者が話しやすいように職員から積極的に話しかけるようにしている。アンケート等でも意見や要望を聴収し、スタッフ会議にて改善に取り組んでいる。	利用者の訴えは、日々の生活の中で傾聴し、家族との面会時に伝え、意見や要望に関しては会議等での検討が行われています。家族には定期的にアンケート調査を実施し、意見・要望に沿うように努められています。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行い意見や提案を聴いている。又、スタッフ会議では必ず一人一人に意見を出してもらい運営に反映できるように努めている。消極的なスタッフの意見も反映出来るように工夫している。	管理者による定期的な面談が行なわれています。会議での発言に消極的な職員に、意見を文章で書くように促され、職員全員が意見を出せるよう工夫されています。職員の意見は、管理者会議で検討され、運営に反映できるように努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々に委員を設置し、評価基準を設けている。その評価に沿って賞与の査定や随時個別面談を行い、向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。昨年、処遇改善加算1を取得し努力を評価して給与や賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、国籍問わずに職員を採用し、経験や実力が十分出せる職場づくりを心掛けている。趣味や子供の行事、資格をとるための休暇や勤務時間の調整をしている。	20歳代～70歳代の職員が働かれており、個々に応じた勤務形態での雇用に努められています。以前は、外国籍の方が就労されていたこともあります。資格取得の支援にも前向きで、職員が働きやすいように調整されています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束の排除等人権について内部研修を行い、人権教育について学習する時間を設けている。又、接遇や尊厳の保持について実践されるように日常的に指導している。	人権教育の内部勉強会に取り組まれています。職員全員でDVDを鑑賞し、共通認識が持てるように努められています。言葉遣いや態度が不適当な場合は、管理者が注意を促し、指導されています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修を行っている。各委員会を設置し委員ごとに毎月内部研修を行っている。又、外部研修希望者が参加できるよう勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の活動や情報交換をしたり、意見交換を積極的に行っている。又、他施設の見学を受け入れ、意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問にて面談を行い、要望を聴くようにしている。入居時も不安感を軽減させるように話す時間を多く設け、ご本人の思いを傾聴し理解していくことで信頼関係を築くことに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居前の面談の面談時から要望等を聞き入れながら納得して契約して頂いている。又、本人とは別の場面でご家族と面談を行い、ご家族が相談しやすい環境づくりにも努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の要望を聴き、入居者の身体機能や全体の生活機能を考え、どのようなサービスが必要かを考えて対応している。状況が変化した際でもすぐに対応できるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬・感謝の気持ちを忘れずに接している。共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスを頂いている。ご本人が出来る事を考慮しながら家事など一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り、ご家族を労いながら入居者を職員と共に支援していく関係づくりを築いている。外出、行事、誕生会等に参加して頂けるように家族に働きかけている。病院受診もご家族と連携を取り行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、電話の取次ぎも行っている。又、今まで生活していた地域での商店街や理美容室に行けるように可能な限り支援している。	利用者の中には、家族と一緒に墓参りに外出される方や知人達との外食等で外出される方などがいらっしゃいます。友人・知人も多数訪問され、床屋や美容室、喫茶店、ケーキ屋等への外出など可能な限り希望に沿うように努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを尊重しているため関わりが少ない方もいるが、同じ時間を共有し関係を深められるように努めている。又、トラブルがある場合は席替えを行ったり、それぞれ生活が快適に過ごせるようにスタッフが間に入り介入している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況に応じた施設や病院の選択、入居時の情報提供や定期的なお見舞い、亡くなった際の通夜葬儀への参列、ご家族への電話、遺品の整理などの支援をできる限り行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人・ご家族の意向を把握し、できる限り要望に沿った生活ができるように支援している。又、意思が伝えられない方に対しては生活の中や家族の情報にて把握していく努力を職員全員で行っている。	利用者やその家族の会話等から、これまでの生活歴や趣味、好きなことなどを聴き取り、担当者が主となって職員間で希望や意向を共有されています。アセスメントは6か月おきに行われています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人に伺い、スタッフ間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者の様子観察を行い、申し送り時やスタッフ会議の実施により情報共有し現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り等で常にスタッフ間の意見交換を行い、ご本人・ご家族・主治医等の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画書は6か月おきに見直されています。担当者が中心となって職員全員で話し合わせ、家族への説明を行った上で同意の署名も得られています。申し送りの為のカードックスの中に保管され、職員間での共有が図られています。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供記録や申し送りノートを記入しスタッフ間での情報共有を行っている。担当スタッフが中心となる関わりの仕組みをつくっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に応じた支援を考慮し、家庭行事や社会活動への参加など個々に応じた支援を心がけ実践している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅周辺を散歩・ドライブに行った際利用者を支えている地域資源の把握に努めている。又、民生委員や地域住民の方々と関係づくりを行い協力を得ながら住み慣れた場所で安全に生活できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人が同敷地内にあり、24時間安心して迅速かつ適切な医療を提供できる体制を導入しており、又、協力病院との連携もスムーズに行っている。	入居時に意向を確認されています。大半は母体の医療機関を希望され、2週間おきの訪問診療を受けられており、他科受診においては、家族の協力を得ながら支援されています。急変時など迅速に医療を受けられるように協力病院との連携体制も構築されています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり常に介護士との連携を図っている。協力機関の看護師とも看護師間で常に連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	SWを介して行っている。担当者会議等に参加して情報を共有している。代表が医師のため病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・ご家族に意向を伺い、主治医と相談しながら希望に応じられるようにしている。又、入居後も常に今後の方針をご家族と話し合っている。現在は看取りの介護を行っている。	入居時に看取りの意向を確認し、同意書をもらわれています。その後も家族や医師と相談しながら、本人や家族の意向に沿えるように努められ、医師との連携体制も整えられています。また、看護師による勉強会も行われており、看取りの際にはミニホワイトボードを活用して、今の状態を職員間で共有できるよう工夫されています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを作成し研修を行っている。外部研修にも参加している。又、事例検討を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。又、運営推進会議に地域の方に協力を依頼し避難訓練に参加してもらっている。非常時に備えて飲料水・非常食の準備をしている。	消防署立ち合いの下、通報訓練や避難誘導訓練など年3回程度の防災訓練が実施されており、備蓄も準備されています。避難訓練への家族や地域の方の参加協力も得られており、意見に基づく改善にも取り組まれています。災害時避難所が遠いので地区住民の避難所として、当施設を提供することも考えられています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという尊敬・感謝の気持ちを忘れず言葉かけや対応には、誇りやプライバシーを損なわないように配慮し特に入浴・排泄介助には気を付けている。	利用者に対して人生の先輩として尊敬・感謝の気持ちを持って対応されています。接遇委員会による毎月の内部研修のほか、外部研修も受講し、職員全体で取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちを大切に、選択しやすい問いかけを行い、自分で決めることができるよう支援している。又、表現することが難しい方は、表情や行動の変化に気配りし気持ちを汲み取るように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムやその時の状況を把握しながらご本人の自らの行動を優先し希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時に理美容を利用している。男性の髭剃りの支援も行っている。毎日の服装もご本人の決定を優先している。おしゃれ着には特に生地を傷めないような配慮をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を変更したり、味や色彩等、食事が楽しくなる工夫を行っている。ご利用者の要望を伺い、イベント食や手作りの献立を提供している。地域の弁当屋の協力を得て、高齢者向けのお弁当を提供している。(月2回程度)	職員が検食を毎日行っており、意見の反映も行なわれています。月に2回は、地域の弁当屋の高齢者向け弁当が提供され、また外食の機会も設けられています。週に1回程度は、利用者と一緒におやつ作りなどが行われ、日々の食事を楽しんで頂けるように努められています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に合わせた形態で提供し、食事・水分の摂取量のチェックを行っている。摂取量などは、主治医に報告している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご入居者の状態にあった方法で口腔ケア・義歯洗浄・うがいを行っている。又、必要に応じて訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握することでトイレ誘導や夜間のポータブルトイレ使用等で自力で排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用いて個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導が行われています。夜間もポータブルトイレを使用するなど自立に向けた支援が行われています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握すると共に日頃よりご入居者に合わせた水分補給・食事の工夫・運動等を行い、自然排便ができるように支援している。又、状況に応じて主治医・看護師に相談し下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能で一人一人の希望に合わせて柔軟に対応をしている。拒否がある場合は声掛けの工夫や職員を交代したり、時間やタイミングをずらして支援している。	午後に週2回の個浴を基本とし、曜日以外でも柔軟に対応するよう努められています。入浴を拒否される利用者にも工夫して対応されています。脱衣所にはエアコンが設置され、ヒートショック防止に努められています。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、夜間に安静して頂けるよう支援している。日中でもご本人の希望や様子によって休息できるよう支援している。又、居室の温度調節を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤状況をいつでも把握できるようにしている。変更時は申し送りノートに記載し申し送り時に伝えスタッフ間で情報を共有できるようにしている。誤薬がないようにダブルチェックにて確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を生かしたレクリエーション、家事等を個々に合わせた生活行動が行えるような支援を行っている。又、外出等で気分転換が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望によりご家族・地域の人と協力を得て、望む場所へ外食・外出している。又、近くの商店街へ散歩に行き、買い物へ出かけている。	週2回はドライブに行ったり、近くの吉塚商店街などの協力を得ての買い物や和菓子等を食べに外出したりされています。昨年の11月には、地域の方の協力で芋ほりを実施し、調理するなどの取り組みも行われています。毎日外出を希望される方には、近所の散歩などで気分転換が図られています。今年も遠出の外出を検討されています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理している方、お預かりして管理している方と個々の能力に合わせ対応している。施設にヤクルト配達に来る際に購入している。又、商店街への散歩の際、外出支援の買い物の際購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしている。手紙を出す方は現在いないが、届いた手紙は手渡ししている。又、読めない方は了承を得てスタッフが読み上げている。ご家族が面会の際、お渡しする。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室・トイレはわかりやすいようにしている。共有空間にはご入居者が作った作品を飾り家庭的な雰囲気心をかけている。トイレは排泄後常に掃除・消毒を行い衛生面にも配慮している。	トイレの場所がわかりやすいように、目印をつけるなどの工夫が見られます。ホールに加湿器3台を設置し、室温・湿度を頻回にチェックされ、居室とホールの極端な温度差が生じないように配慮されています。ホールにはカメラを設置し、安全対策に努められています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル等で気の合う人と会話を楽しめるといった空間を作っている。その時はお茶等を出しつづけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き、身体に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったりなどして安心感が得られ、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、馴染みの家財道具や家族の写真などが飾られ、整理整頓も行き届いており、居心地よく過ごしやすい環境が設えられています。衣類の収納も整頓されており、職員の細やかな配慮がうかがえます。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレや廊下には手すりがあり、ご入居者ができることを最大限に生かして頂けるように介入している。また、居室やトイレ等はわかりやすいように表札をかけ、個々の能力に応じて自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と	
			2. 利用者の2/3くらいの					2. 家族の2/3くらいと	
			3. 利用者の1/3くらいの					3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんど掴んでいない					4. ほとんどできていない	
59	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ毎日のように	
			2. 数日に1回程度ある					2. 数日に1回程度	
			3. たまにある					3. たまに	
			4. ほとんどない					4. ほとんどない	
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 少しずつ増えている	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. あまり増えていない	
			4. ほとんどいない					4. 全くいない	
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 職員の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 家族等の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 家族等の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどできていない	
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目に付く場所に理念を掲げている。リネンの見直しを全スタッフに提示し、検討中。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食など外出の機会を多くし地域とのかかわりを多く持つように生活している。施設の行事に地域の方をお誘いしたり、地域のイベントに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター研修に参加したり、運営推進会議で認知症について説明している。又、地域の方の見学、相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を調整し、ご家族や地域の方が多く参加できるようにしている。要望に対応し施設の現状や問題点の説明等を行い、一緒に考え、解決の方向を検討している。又、地域の情報をもらい入居者様とイベントに参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や報告書の提出などで頻回に区役所、地域包括センターに行っている。その際に相談や日々の活動の報告を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず外出したい様子があれば一緒に出かけたりと安全面に配慮し、気分転換を図れるように工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やマニュアルをもとに内部研修を行い防止に努めている。自分だけでなく一緒に働く職員同士でも声をかけあい防止している。新人研修にも取り入れている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や内部研修を行っている。管理者はいつでも対応できるように施設独自の研修も受けている。成年後見利用についてご家族の相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解できるまで時間をかけて説明し、納得の上で契約を行っている。不安な事や疑問点にはしっかりと説明を行い、理解してもらっている。退居時も主治医と相談しご家族と協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族、面会者が話しやすいように職員から積極的に話しかけるようにしている。アンケート等でも意見や、要望をお聞きしスタッフ会議にて改善に取り込んでいる。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の朝礼や個人面談を定期的に行い意見や提案を聞いている。又、スタッフ会議で上がった意見や提案を管理者会議で話し合い運営に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員を設置し評価基準を設けている。その評価に沿って賞与の査定を行い、向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。又、随時個別面談を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、国籍を問わずに採用し、経験や実力が十分出せる職場作りを心掛けている。趣味や子どもの行事、資格を取る為に休みや勤務時間を調整している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束の排除等人権について内部研修を行い、人権教育について学習する時間を設けている。又、接遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修を行っている。各委員を設置し委員毎に毎月内部研修を行っている。又、外部研修希望者が参加できるように勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の活動や情報交換をしたり、意見交換を積極的に行っている。又、他施設の見学を受け入れている。見学時に意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し面談を行い、要望を聴くようにしている。入居時も不安にならない様に話す時間を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居前の面談時から要望等を聴き納得して契約をして頂いている。又、契約時も時間をかけて要望を聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の要望を聴き、入居者の身体機能や全体の生活機能を考えどのようなサービスが必要かを考えて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち尊敬・感謝を忘れず共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスをもらっている。又、食事作り、掃除、洗濯等できる事を一緒にしてもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り協議し、共にご本人を支えていく関係作りを築いている。外出、行事、誕生日会等に参加できるようにしている。病院受診もご家族と連携をとり行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、電話の取次も行っている。又、生活していた地域の商店街や理美容室に行けるように可能な限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを大事にしている分、関わりが少ない方もいる。同じ時間を共有し関係を深められるように努めている。又、席替えを行ったり、大きなトラブルなく生活できるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況に応じた施設や病院の選択、入退居時の情報提供や定期的なお見舞い、亡くなった際の通夜葬儀への参列、ご家族への電話、遺品の整理など、支援をできる限り行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人、ご家族の意向を把握し、出来る限り要望に沿った生活ができるように支援している。又、意思を伝える事ができない入居者に対しては生活の中で把握していく努力を全員でしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人より伺いスタッフ間で共有できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者の様子観察を行い、申し送り時やスタッフ会議の実施により、現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り等で常にスタッフ間の意見交換を行い、ご本人、ご家族、主治医の意見を反映した介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活状況を記入し、変化がある場合には申し送りやスタッフ会議で話し合い介護計画に反映させている。又、実践できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に応じた支援を考え、家庭行事や社会活動への参加など個々に応じた支援を心がけ、実践している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の警察との連携、消防、商店街、民生委員等と協力しながら、生活圏が維持できるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人が同敷地内にあり、協力医院との連携もスムーズに行っている。ご家族の希望時は送迎、付き添いも行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、常に介護士との連携が取れている。協力機関の看護師とも看護師間で常に連携がとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での生活状態を情報提供し、家族やご本人の希望を聞いた上での電話での連絡、直接病院に出向くなどし、医療機関との関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に意向を伺い主治医と相談し希望に応じられるようにしている。又、入居後も常に今後の方針をご家族と話しあっている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し研修を行っている。外部の研修に参加している。又、事例検討を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。又、運営推進会議時に地域の方に協力を依頼し避難訓練に参加してもらっている。非常時に備えて飲料水、非常食の準備をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、言葉かけや対応については、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、特に入浴・排泄介助には気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを大切に、選択しやすい問いかけを行い、自分で決めることができるよう支援している。又、表現することが難しい方は表情や行動の変化に気配りし、気持ちを汲み取るように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターン・リズムやその時の状況を把握しながら、ご本人の自らの行動を優先し希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時に理美容を利用している。男性の髭剃りや女性のマニキュアの支援を行っている。毎日の服装もご本人の決定を優先している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを普段の会話の中で聞き、メニューに取り入れている。又、昔からの行きつけのお店に外食している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居様の状態に合わせた携帯で提供し、食事・水分の摂取量のチェックを行っている。又、主治医に報告している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様の状態にあった方法で口腔ケア・義歯洗浄・うがいを行っている。又、必要に応じ訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することでトイレ誘導や夜間のポータブルトイレ使用等で自力で排泄できるよう支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握すると共に、日頃より入居者様に合わせた水分補給・食事の工夫・運動等を行い、自然排便ができるように支援している。又、状況に応じて主治医・看護師に相談し下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で一人一人の希望に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は声掛けの工夫や職員を交代したり、時間やタイミングをずらして支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、夜間に安眠して頂けるよう支援している。日中でもご本人の希望や様子によって休息できるよう支援している。又、居室の温度調節を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬状をいつでも見れるようにしている。変更時は送りノートに記載し申し送り時に伝えスタッフ間で情報を共有できるようにしている。又、誤薬がないように2重に確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を生かしレクリエーション、家事等を個別に声掛けしている。又、外出等で気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望によりご家族、地域の人と協力をえて望む場所へ外出、外食している。又、近くの商店街に散歩に行き買い物をしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理している方お預かりして管理している方と個々の能力に合わせ対応している。施設にヤクルト販売が来る際に購入している。又、商店街での買い物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしている。手紙をだす方はいないが届いた手紙は手渡ししている。又、読めない方はスタッフが読み上げている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室、トイレがわかりやすいようにしている。共有空間には入居者様が作った作品を飾り、家庭的な雰囲気心をかけている。トイレは排泄後に常に掃除、消毒を行い衛生面も配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル等で気の合う人と会話を楽しくめるように空間を作っているお茶等をだすつるげるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き、身体状態に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったり等安心して過ごして頂けるよう工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレや廊下には手すりがあり、入居者様ができることを最大限活かして頂けるようにしている。又、居室やトイレ等に表札をかけわかりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				